

やすだ のぼる  
**安田 登**  
 能楽師（下掛宝生流：ワキ方）  
 寺子屋 講師 （阿弥陀寺）  
 こどもおばけ合宿 講師 //

主著に『論語』『あわいの時代』『あわいの時代の『論語』ヒューマン2.0』  
 『能 650年続いた仕掛けとは』他多数。

# こままたとき 聖人の 親鸞鳥



イラスト 中川 学

## 暑いと寒いのおもふとも 害せじとおもふとも

「今年は何年になく暑い夏です」なんていう気象庁からのお知らせは、もう毎年聞いていますし、

暑いせいか、冷たいものばかり飲むのでおなかの調子もよくない。下痢になったり、便秘になったり、ムカムカしたり。体調が悪いと、気分も悪い。街中では、陰險なふるまいをする人が増えていきます。

暑いですね。外を歩くだけで疲れてしまいます。このお便りが届くころには少しは涼しくなっているでしょうか。

豪雨被害も毎年あります。熊本は今年も大変でした。

また、熱帯のような突如の雨も増えています。先日、一日に五回の突如の雨に出遭いました。十五分ほど続いて、カラッと晴れあがる。まるでスコールです。しかし、それでも十五分は続くので、その日は、待ち合わせに遅れてしまいました。まるで熱帯のような天気なのです。日本も、ハワイやブラジルのように、時間にもう少しゆるやかにした方がいいのではないのでしょうか。

豪雨被害も毎年あります。熊本は今年も大変でした。また、熱帯のような突如の雨も増えています。先日、一日に五回の突如の雨に出遭いました。十五分ほど続いて、カラッと晴れあがる。まるでスコールです。しかし、それでも十五分は続くので、その日は、待ち合わせに遅れてしまいました。まるで熱帯のような天気なのです。日本も、ハワイやブラジルのように、時間にもう少しゆるやかにした方がいいのではないのでしょうか。

「もう、あいつは時間に遅れる奴なんだから、気にしないようにしよう」となればいいのですが、「遅刻は絶対、許せない」という人もいます。「遅刻なんてするのは甘えだ！その用事を大事だと思っていないから守れないんだ」なんていう。しかし、どんな大事な用事があっても、時間を守れない人はいます。私の知人には結婚式に遅刻したという新婦や、入社試験に遅刻したという人だっています。舞台上だって遅れる人はいます。

「もう、あいつは時間に遅れる奴なんだから、気にしないようにしよう」となればいいのですが、「遅刻は絶対、許せない」という人もいます。「遅刻なんてするのは甘えだ！その用事を大事だと思っていないから守れないんだ」なんていう。しかし、どんな大事な用事があっても、時間を守れない人はいます。私の知人には結婚式に遅刻したという新婦や、入社試験に遅刻したという人だっています。舞台上だって遅れる人はいます。

「もう、あいつは時間に遅れる奴なんだから、気にしないようにしよう」となればいいのですが、「遅刻は絶対、許せない」という人もいます。「遅刻なんてするのは甘えだ！その用事を大事だと思っていないから守れないんだ」なんていう。しかし、どんな大事な用事があっても、時間を守れない人はいます。私の知人には結婚式に遅刻したという新婦や、入社試験に遅刻したという人だっています。舞台上だって遅れる人はいます。

刀の鞘を海中に捨てたときに、武蔵が「小次郎、やぶれたり」と言ったセリフは有名です。そして、そのセリフの通り、宮本武蔵がこの勝負に勝つて、巖流島の決闘は終わります。

勝負が決する前に「小次郎、やぶれたり」と言った武蔵、確かにかっこいいのですが、でもこのとき武蔵は二時間も遅刻したのです。武蔵が遅刻した理由は、船の櫂を削っていたからだとか、あるいは心理戦であつたとか、いろいろ言われていますが、ひよつとしたら武蔵も時間を守れない人だったのかもしれない。いや、武蔵にとつて遅刻なんてどうでもよかったのかもしれない。

勝負が決する前に「小次郎、やぶれたり」と言った武蔵、確かにかっこいいのですが、でもこのとき武蔵は二時間も遅刻したのです。武蔵が遅刻した理由は、船の櫂を削っていたからだとか、あるいは心理戦であつたとか、いろいろ言われていますが、ひよつとしたら武蔵も時間を守れない人だったのかもしれない。いや、武蔵にとつて遅刻なんてどうでもよかったのかもしれない。

「時間を守ることがいいことだ」というのは絶対に正しいということではありません。ブラジル公演を何度かしたことがあります。「四時に集合」

「時間を守ることがいいことだ」というのは絶対に正しいということではありません。ブラジル公演を何度かしたことがあります。「四時に集合」

「時間を守ることがいいことだ」というのは絶対に正しいということではありません。ブラジル公演を何度かしたことがあります。「四時に集合」

「そんなの変だよ」という方もいらつしやると

「そんなの変だよ」という方もいらつしやると

「そんなの変だよ」という方もいらつしやると

思うのですが、考えてみれば一理はあります。

たとえばご自宅に招かれたとき、時間より前に行つて、まだ掃除が終つてなかつたり、準備が整つていなかったりしたら、早く行くことはむしろ失礼ですね。

時間よりも遅く行く、というのは、そのような「おもてなし文化」から生まれたのかもしれない。欧米の国ではだいたい、時間より遅れて行くのが礼儀ですね。

日本人にとつて時間を守るといふのは、時間よりも早く行くこと、彼らにとつての時間を守るといふのは時間よりも遅く行くこと。基本的な考え方が違うのです。

もし、私がブラジルに生まれていたら、日本語ではなくポルトガル語をしゃべっていたように、遅刻に対する考えも違っていたでしょう。

また、数学が得意な人、苦手な人がいるように、時間を守ることが得意な人、苦手な人もいます。

す。

害せじとおもふとも

親鸞聖人は『歎異抄』の中で次のようにおっしゃっています。

わがこころのよくて

ころさぬにはあらず。

また害せじとおもふとも、  
百人千人をころすこと  
もあるべし。

自分の心が善いから、人を殺さないのではない。また、人殺しなんかしないと思つていても、百人千人を殺すことだつてあるだろう。

親鸞聖人は心が善いから善い行ないをするので、悪い心をもつから悪い行ないをするのでもない、状況によつてどんなことでもしてしまふ、それが人間だといひます。

遅刻せじと思つとも遅刻しちゃうことだつてあるのです。努力が大切だといふ価値観の現代社会

に生きる私たちは、それは自分の意志によるものと思つています。遅刻をする人に対して「気合が入つていないからだ」なんていいいます。

しかし、遅刻をしたくないと思つてもしてしまふ人もいます。人間とはそんなままならぬ存在です。遅刻だけではありません。酒やたばこをやめせん。約束を守れない。浪費してしまふ。

そうでない人からすれば、努力をすれば何とかなると思ふ。実際、何とかなることもありませんが、どうにもならないこともある。

人とは、そういうものなんだよ、と親鸞聖人は教えてくださいます。

無理は禁物

ところで、昔の日本には遅刻なんて概念はありませんでした。

『遅刻の誕生（橋本毅彦、栗山茂久）』という本によると、日本に「遅刻」といふ考え方が誕生

したのは、鉄道が敷かれたことがきっかけだったようです。

定時に鉄道を出発させることに命を燃やした人がいたようなのです。明治時代の話です。

鉄道はイギリスから入つてきたのに、本場イギリスよりも「正確な時間」に出発をする。

「日本人すごい！」という美談のようですが、時間を守れない人からすればいい迷惑です。

だいたい江戸時代は時計を持つていない人自身がそんなに多くありませんでした。時間を知るのとはたとえばお寺の鐘です。ゴーンと鳴つたら家を出るとか。いいでしょ。このシステム。

今でも「お寺の鐘が鳴つたら家を出る」という風にするといふいろいろいいことがあります。

たとえば会社。十時の鐘が鳴つたら家を出る。職場が家の近くであれば、職場に着くのが十時十分になる。これが出勤時間。通勤に一時間かかる人

なら出勤時間は十一時。近い人は早くから仕事を始めて、遠い人はゆつくり仕事を始める。

ついでに「通勤時間も勤務時間に含める」と決めれば、遠くの人は早く帰る。近くの人は遅くまで仕事をしようになります。特にこんな暑い中。

無理は禁物です。フランスの哲学者、数学者であるデカルトは早起きが苦手でした。

朝早くに起きることができず、毎朝ベッドの中でぼやぼやしていました。しかし、デカルトにとつてはベッドの中の、このぼやぼやの時間は、哲学や数学のことを考える、とても大切な時間でした。

ある日、スウェーデンの女王が彼を家庭教師として宮廷に招きました。デカルトは本当は行きたくなかったのですが、女王陛下から直々の親書が三度も送られ、海軍提督が軍艦でデカルトを迎えに来た。

デカルトは仕方なくスウェーデンに行きました。

デカルトは仕方なくスウェーデンに行きました。

ところでこの女王、デカルトとまったく逆の朝型の人。女王のための講義は、なんと！朝五時から始められることになつたのです。

デカルトにとつてはキツイ。死ぬほどつらい。実際、講義を始めて一カ月ほど経つた二月。デカルトは風邪をひき、それをこじらせて肺炎になり、とうとう亡くなつてしまつたのです。

「早起きは三文の徳（得）」だなんていいますが、それも人によりけりです。無理は禁物。

朝寝だけではありません。自分が苦手なことを無理して行くと病気になる、ついには死んでしまふこともあります。

イヤな仕事をしたり、イヤな人と一緒に何かをしたりすると、病気になる、ついなときつてあるでしょ。

孔子はいいいます。「道同じからざれば相為に謀らず」と。気が合わない人からは離れるのが一番。

孔子はいいいます。「道同じからざれば相為に謀らず」と。気が合わない人からは離れるのが一番。